

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

High Incidence of Atopic Dermatitis among Children Whose Fathers Work in Primary Industry: The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

第一次産業に従事する父親を持つ子どものアトピー性皮膚炎発症率に関する研究:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: International Journal of Environmental Research and Public Health

年: 2022

DOI: 10.3390/ijerph19031761

筆頭著者名: 横道 洋司

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

衛生仮説によれば、家族の人数が少なく、清潔な環境で育つことは花粉症やアトピー性皮膚炎を発症しやすくするとされる。農家で育った子どもにはアトピー性皮膚炎が少ないという報告もある。本研究では、家業で子どもが育つ環境を分け、生まれてから3歳までの子どものアトピー性皮膚炎発症率が異なるかを検討した。

方法:

父親の職業を質問票で調査し、その職業を家業とみなした。医師からアトピー性皮膚炎の診断を受けたかどうかについては、子どもが6か月、1歳、2歳、3歳時に質問票により調査し、アトピー性皮膚炎の累積発症率を家業別に比較した。解析に当たっては、両親のアトピー性皮膚炎の既往、両親の学歴、世帯収入、犬猫の飼育状況で補正を行った。

結果:

子どもの月年齢が6か月時点、1歳時点、2歳時点、3歳時点でそれぞれ41,469組、40,067組、38,286組、36,570組の父親と子どものペアを解析対象とした。アトピー性皮膚炎の累積発症率は、父親が第一次産業(農業・林業・漁業)に従事している場合に最も高く、月年齢が6ヶ月で2.5%、年齢が1歳で6.6%、2歳で12.0%、3歳で15.4%だった。アトピー性皮膚炎の有病率も、父親が第一次産業に従事している場合に各月年齢で最も高くなった。第一次産業の中では、家業が林業の場合、子どものアトピー性皮膚炎の累積発症率が最も高かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究において、第一次産業を家業とする場合、子どもの6か月から3歳までのアトピー性皮膚炎の累積発症率および有病率が最も高くなったのは予想に反する結果であった。この高い発症率の背景として、工業化した日本では、例えば農家の子どもは必ずしも家畜と近接した生活をしている訳ではないことが理由に挙げられる。また日本の農業の割合で大きいのは、畜産ではなく農作であることも理由のひとつだろう。これらの家業を分類できなかったことは研究の限界のひとつである。林業の家庭で発症率が高かった理由のひとつとして、森林に近接した生活では花粉へのばく露機会が多く、アレルギー疾患リスクを高めたことが考えられる。

結論:

日本では、家業が第一次産業である子どものアトピー性皮膚炎発症率が高い。工業化した国の第一次産業が多い地域では、アトピー性皮膚炎の発症リスクが高まっている可能性がある。